

対人呼称と場面差

—神戸市北区道場町日下部について—

福 島 真 司

1 はじめに

人は言語を用いて、対人的なコミュニケーションを日々はかっている。その際に使用する言語はただ闇雲に選択しているわけではない。人々は、コミュニケーションしているその時々状況に応じて、言語を選択し、そして使用しているのである。その時々状況とは、「場面」のことである。すなわち、人々は、「場面」によって支配された言語を用いてコミュニケーションを行っているのである。

人々は様々な実際の「場面」において、どのように言語を選択しているのであろうか。人々が、言語使用の実際に「場面」を反映していると考えられる「対人呼称」に注目し、その「場面」ごとの決定要因を明確にしようとした。

これまでの対人呼称の研究は、真田(1977)、神鳥(1989)等の研究があるが、それらはいずれも社会の構成員の状況を反映しているものではなかった。そこで、当研究では、当該社会が、その構成員の言語にどのように反映しているものであるかということを明らかにすることを目的とした。

本稿では、「対面時における対人呼称」と「非対面時における対人呼称」を取り上げた。^(注1)「話相手に関する場面」と「状況に関する場面」^(注2)とを比較することによって、「場面」に応じて用いられる「対人呼称」の差異性を明確にしようとしたのである。

2 調査対象地域の概況

調査対象地域は、神戸市北区道場町日下部である。

道場町日下部は、神戸市の北部に位置する。もともとは、道場村であったが、1951年に神戸市に合併され、道場町日下部になった。1951年には、神戸市兵庫区に所属していたが、1972年からは、現在のように神戸市北区の一町となっている。

この地域は、古くから稲作中心の農業を営む土地である。そのため現在も全戸数中に占める農家の割合が大きい。近年は、政府の減反政策の影響で、稲作以外にトマト、レタス、エンダイブなどの畑作も盛んに行われている。また、神戸市市街地などに勤めに出たりする農家も多く、ほとんどが兼業農家である。現在も純農家を続けている農家はわずかに三戸にすぎない。

日下部は、西から、城南(ジョーナン)地区、中(ナカ)地区、街(マチ)地区に三区に分かれている。各々の戸数は、城南地区約100戸、中地区約30戸、街地区約40戸である。城南地区には、神戸鉄道道場南口駅がある。北神急行鉄道の開通で、神戸市中心部から一時間の距離になり、日下部は神戸市中心部の通勤圏となった。そのため、近年は城南地区

を中心に、神戸市中心部へ通勤する転入者が、増えつつある。城南地区の道場南口駅周辺には、このような転入者が住居するアパートが五つ、マンションが二つあり、他の二地区よりかなり戸数が多くなっている。

3 調査概要

3.1 調査年月日

当調査は、1990年8月17日～1990年8月23日にかけて実施した。

3.2 調査対象者

この調査では、道場町日下部の住民のうち、比較的古くからこの土地に住居している、この土地で働いている中・高年層を対象として行った。

城南地区の住民のうち、アパート、マンションの住民を中心とした新しい転入者は、ほとんど土地の人と面識がないと予想されるため、この調査の対象から外した。また、街地区は、商店中心の地区で、他の二地区とあまり親交がない地区だと土地人にいわれている。そのため、今回の調査からは、とりあえず外した。いいかえれば、農村的な性格の地区を一つのまとまりとしてとらえ、城南地区、中地区の12戸25名の人たちを対象として調査したものである。

なお、今後とも可能な限り、転入者、街地区の住民についても調査を行いたいと考える。

3.3 調査対象者の年齢構成

調査対象者の年齢構成は、以下の表の通りである。

性別	地区／年齢	45～59	60～74	75～89	合計(人)
男 性	城南地区	2	5	1	8
	中地区	0	3	1	4
女 性	城南地区	2	4	3	9
	中地区	0	2	2	4
合 計 (人)		4	14	7	25

年齢構成を見ると、45～59歳の層が四名しかいない。他の年齢層の人たちより少なくなっている。この原因には、次の二つの理由が挙げられる。

(1) 中年層以下の男性の多くは、神戸市の中心部に勤めに出でしまっている。この中には、日下部から通っている者、土地を離れてしまい、他の土地（特に神戸市中心部）に住居している者の二通りの人たちがいる。両者とも調査が困難であったため調査対象から外さざるを得なかった。

(2) 中年層以下の女性の多くは、他の土地に嫁いでこの土地から離れてしまっている。

以上の理由で、59歳以下の被調査者が少なくなり、表のような年齢構成になっているわけである。

3.4 調査方法

調査はすべて面接により行った。

地域の住民の家族構成表をあらかじめ制作しておいた。まず、この調査では、次のような場面設定があることを、被調査者に対して提示した。すなわち、「公でない、普段の場面を考えて下さい。こんな時に、次のような呼び方は、何と言いますか。」と、言ったりえ、その場面状況をよく理解してもらうようにした。次に、具体的に次のような二つの調査を実施した。

被調査者に対して、表中の住民一人一人を指して、次の質問を行った。

(1) 対面時の呼称を聞く場合

「この方と面と向かって話している時、この方のことをどのように呼んでいますか。」

(2) 非対面時の呼称を聞く場合

「集落内のどなたかと話している場面を考えて下さい。この方を話題にするとき、この方のことをどのように呼んでいますか。」

それに対して、回答を求めるといった方法をとった。

4 調査結果

4.1 普段の場面の対面時における呼称全体を通しての特徴

表Ⅰ～Ⅳを通して検討した結果、普段の場面の対面時の呼称には次のような特徴が認められた。

A 呼称をもたない場合の特徴

(1) 表中のブランクの少ないものから順に取り上げてみると、①「男性から男性」

②「女性から男性」 ③「女性から女性」 ④「男性から女性」であった。

この理由として、次のような二点が指摘できる。

① この集落における社会構造に、その原因が求められる。

この集落は、農村社会である。その働き手は、男性が中心である。女性も当然、働き手の一人に数えられてはいるが、作業の内容や力仕事などをこなす能力は、男性の方が女性よりも勝る場合が多い。農村社会は、すなわち、男性社会に外ならない。集落が機能して行くためには、まず、その中心である男性どうしの付き合いが必要になる。次に大切なのは、女性が男性を知ることである。その次に、女性どうしの関係が密接になる必要がある。これは、家事や育児などの共通の仕事の担い手であることが原因である。男性が女性を知ることの必然性は薄いために、知らないで済むことが多いということになる。

② 男性のほとんどは、当地目下部の出身であるために、幼少の頃からお互いを知っていると考えられる。一方、この集落の女性のほとんどは、嫁入りによってこの集落に転入してきた人たちである。そのため、転入して来た者の心理には、新しい土地に早く慣れなければならないという思いが働くであろう。それには、土地の人たちの名前を早く覚えることが必要となる。どの家に誰が住んでいるのかを覚えよう

とする時に、まず、初めに覚えるのは各々の家の家長であろう。家長は、ほとんどの場合、男性である。女性が男性をよく知っているのは、このためである。転入者である女性は、次に先住の女性を覚えようとするのである。しかし、①において一つの理由として述べたように、その必然性が男性を覚えることよりも乏しいため、男性に対する呼称ほど、女性に対しては呼称をもたないという結果になっているのではなからうか。

- (2) 表中の太線で区切られた左上と右下の部分は、同じ地区の人々の呼びかけの表である。左上は城南地区どうし、右下は中地区どうしの関係になる。城南地区、中地区ではそれぞれの地区ごとに会合が開かれる。同地区の住民はこの会合において出会うことがしばしばある。そのため、相互の間に呼称が多い。一方、左下と右上の部分、すなわち、異なる地区どうしの関係では、呼称が少ないという傾向が見られる。
- (3) 5a, 5b, 27a, 29bの人たちは、高齢であり、加えて、近年病気がち、あるいは、足が悪いなどの症状をもつ人たちである。そのため、この集落の他の人たちに対して呼称を余りもたない。また、この集落の他の人たちから、あまり呼ばれることもない。すなわち、人と接する機会の少ない人は、呼称が少なくなっている。
- (4) 13bは、タバコ屋兼スーパーを営んでいる。当地日下部の住民は、この商店をよく利用している。また、6Aは城南地区にある天満神社の神主で、6Bは、その配偶者である。そのため、13b 6A, 6Bの人たちは、この集落の人たちによく知られていて、また、この集落の人たちをよく知っている。すなわち、人と接する機会の多い人は、呼称を多くもっている。

B 名前に関する呼称を用いる場合の特徴

- (1) この集落では、名前に関する呼称を最も多く用いる。
- (2) 名前に関する接尾辞には、「～サン」「～チャン」「～ヤン」「～ツェン」「～タン」が用いられる。
- (3) 名前に関する呼称に接する接尾辞「～チャン」は、話し手よりも年齢の上の者に対しても、次の場合には使用されることが被調査者の内省によりわかっている。
 - ① 25a「キチジ」が「キッチェン」、29a「ワイチロウ」が「ワイチェン」などの「通り名」をもつ者に対して。
 - ② 付き合いが深い関係の者に対して。
- (4) 名前に関する呼称に接する接尾辞「～ツェン」「～タン」は、7A「タモツ」が「タモツツェン」・「タモツタン」、10A「サイチ」が「サイツツェン」「サイツタン」のように、名前の末尾がタ行音の者のみに用いられる。
- (5) 「～タン」の使用者の教示によると、幼少の頃に使用していたものを、成人した現在でも、他の呼称に変えずに親愛の情を込めて使用しているということがわかった。このことから、「～タン」は幼児語的性格をもっているかと考えられる。
- (6) 名前に関する呼称に接する接尾辞「～ヤン」で呼ばれるのは、すべて家番号1～6、15～31に含まれる人たちである。この番号で示される地域は、当地日下部の中でも農村的傾向の強い地域であるので、「～ヤン」は農村的な性格をもった接尾辞であ

るといことができる。

(7) 「～ヤン」の呼称は、表中の記号●の下に付した○印を見ればわかるのであるが、ほとんどが年齢の上の者から下の者に対して用いられている(42例/47例=89%)。

また、五歳以上年齢の下の者から上の者に対しては用いられていない。このことから、「～ヤン」は下向きの言い方であると考えられる。

- (8) 名前に関する呼称に接する接尾辞の敬意は、高いものから①「～サン」 ②「～チャン」 ③「～ヤン」の順である。「～ツァン」と「～タン」は、別の系列のもので、「～ツァン」は「～サン」に対応する。その幼児語的な表現が、「～タン」であるといえる。
- (9) 名前に関する呼称には、接尾辞を用いないで、場面によっては名前をそのままの形で用いて人を呼ぶことがある。その呼称で呼ばれる人は、例えば、表Ⅰ中で21Aが甥の12Aから、また、表Ⅱ中で21Bが同じく甥の12Aから呼ばれているように、親族関係において年齢の下の者である。

C. 姓に関する呼称を用いる場合の特徴

- (1) 姓に関する呼称は、名前に関する呼称より敬意が高い。
- (2) 姓に関する呼称に接する接尾辞は、「～サン」だけである。
- (3) 姓に関する呼称を用いて人を呼ぶことが多いのは、次のような人である。
- ① 9A (50), 9B (47), 21A (47), 21B (45) のように、この集落の中で、比較的年齢の低い人。(ただし、21Aは9Aより年齢が低い、9Aが兼業農家であるのに対して、21Aは純農家で一日中日下部で暮らしているため、姓に関する呼称を9A程は使用していない)。
- ② 被調査者の内省からわかったのであるが、他の人たちとの付き合いの浅い人。すなわち、付き合いの浅い関係では姓に関する呼称を用いて呼び合うことがわかる。
- ③ 7A, 工務店の自営のように、この集落以外の人も働く職場に勤めている人。

D. 親族呼称、その他の呼称を用いる場合の特徴

- (1) 親族呼称を一般呼称として用いる呼称で呼ばれる人は、次のような人たちである。
- ① 13b, 14a, 14Aの人たちのような商店の者。
- ② 例えば表Ⅰ中で見ると、27a (86) が21A (47) から呼ばれるように、話し手から特に年齢が高い者。すなわち、年齢の開きが大きい時に、年齢の下位の者から上位の者に対して用いられる。
- (2) 親族呼称を一般呼称として用いる呼称の接尾辞には、「～サン」「～チャン」「～ハン」が用いられる。
- (3) 親族呼称を一般呼称として用いる呼称の接尾辞「～ハン」を用いて人を呼んでいるのは、表中の記号☒の中に付した・印を見ると、12A, 26A, 28A, 29a, 29Aの人たちである。12Aを除く四人の家の場所的性格を見ると、すべて農村的傾向の強い地域である。このことから、「～ハン」は、どちらかという農村的な性格をもった接

尾辞ではないかと考えられる。

- (4) 「～ハン」は、すべて年齢の低い者から高い者に対して用いられている。「～ハン」は、どちらかという高い敬意をもっていると考えられる。被調査者の教示によると、「～ハン」は「～サン」よりも親しみを込めた言い方である、すなわち、「～サン」より敬意が低いということである。
- (5) 親族呼称を一般呼称として用いる呼称に接する接尾辞の敬意は、高いものから順に、①「～サン」 ②「～ハン」 ③「～チャン」の順である。
- (6) 女性に対してだけ用いられる呼称には、「オクサン（奥さん）」・「ヨメサン（嫁さん）」があり、被調査者の教示から、敬意は「オクサン」が「ヨメサン」より高いということがわかっている。

以上をまとめてみると、次のようなことがいえる。

対面時における呼称は、次のような条件によって決定づけられる。

- ① 年齢、職業などの社会的要因
- ② 会合の地区という地理的要因
- ③ 地域内の付き合いの深さという心理的要因

これらの三つの要因が結合して、対面時の呼称が決定づけられるといえるのである。

4.2 非対面時における呼称の特徴

表Ⅴ～表Ⅶを通して、非対面時の呼称には、次のような特徴があることがわかった。

A 呼称を用いない場合の特徴

- (1) 表中のブランクの出現頻度の少ないものを、少ないものから順に取り上げてみると、①「男性から男性」 ②「女性から男性」 ③「女性から女性」 ④「男性から女性」であった。この理由は、普段の場面の対面時の呼称の場合と同様に、次の二点が指摘できる。
 - ① 男性社会が中軸となっているというこの集落の社会構造。
 - ② 転入者である女性が、まず集落の各々の家長を覚えようとする。
- (2) 表中の太線で区切られた左上と右下の部分は、同じ地区の人々の呼びかけの表である。同地区の人々の関係には、呼称が多い。一方、左下と右上の部分、すなわち、異なる地区どうしの間では、呼称が少なくなるという傾向が見られる。

B 名前に関する呼称を用いる場合の特徴

- (1) 対面時も非対面時も、ともに対人呼称として名前に関する呼称を用いることが最も多い。
- (2) 名前に関する呼称に接する接尾辞には、「～サン」「～チャン」「～ヤン」「～ツァン」「～タン」が用いられる。これらの接尾辞の敬意やその使われ方は、対面時の場合と同様である。
- (3) 名前に関する呼称には、接尾辞を用いない形が用いられることがある。その呼称で呼ばれる人は、次のような人たちである。

- ① 対面時と同様に、親族関係において、年齢の下の者。
- ② 表Vで10Aが9Aから呼ばれているように、養子の者。

C 姓に関する呼称、その他の呼称を用いる場合の特徴

- (1) 男性から男性に対しての場合、姓に関する呼称で呼ばれる人は、次のような人たちだけである。
- ① 6Aのように天満神社の神主。
 - ② 14aのように転入者であり、かつ高齢者である人。
- すなわち、かなり限られた条件を満たしている者だけが、姓に関する呼称で呼ばれているのである。
- (2) 非対面時においては、「(ドコソコ)の(誰々)」といった形の呼称が使用されている。例えば、「オカダノ タケオサン」と「(姓)の(誰々)」の構造で用いたもの。「ウエノヤノ オジサン」「インキョノ ワイチャン」のように「(屋号)の(誰々)」の構造で用いたものなどが、それである。これらの呼称は、話題主をより明確に伝えようという意識がはたらいたために、用いられていると考えられる。

以上まとめてみると、次のようなことがいえる。

非対面時における呼称の決定づけには、普段の場面の対面時の呼称と同様に次のような条件によって決定づけられる。

- ① 年齢、職業などの社会的要因。
 - ② 会合の地区という地理的要因。
 - ③ 地域内の付き合いの深さという心理的要因。
- これらの三つの要因が結合して、非対面時の呼称が決定づけられるといえるのである。

4.3 「対面時の呼称」と「非対面時の呼称」の比較した場合に見られる特徴

対面時における呼称の特徴と、非対面時における呼称の特徴を比較すると、次のようなことがわかる。

- (1) 表中のブランクは、「男性から男性へ」というように、それぞれ対応する二つの表(計八つの表)のほとんど同じ位置に現われることがわかる。これは、面と向かって話をする事のない人のことを、話題の中で取り上げることはないということを表している。
- (2) 非対面時の呼称には、対面時に見られる呼称の敬意よりも低い敬意の呼称が用いられている。
- (3) 男性が対面時、非対面時の両方に異なる呼称で呼ばれることが多いのに対して、ほとんどの女性は場面がどうであろうとも、呼称は一つしかもっていない。
- (4) 対面時から、非対面時に場面が変わった時の敬意の下がり具合の大きいものから順に示すと、①「男性から男性」 ②「女性から男性」 ③「女性から女性」及び、「男性から女性」という傾向が見られる。また、呼称が回答に出現しないということを表すブランクの出現頻度の少ないものから順に示すと、①「男性から男性」 ②「女

性から男性」 ③「女性から女性」 ④「男性から女性」である。

このように、敬意の下がり具合いとほぼ一致する。すなわち、付き合いの深さが呼称の敬意の決定づけに、かなりの影響を及ぼしているといえる。

以上のことから、対面時とは異なって、非対面時には、次のような特徴が認められる。

① 面と向かっていないために、対面時より敬意が下がる（ただし、付き合いの乏しい人に対しては、敬意は下がっていない）。

② 対面時よりも、明確に伝えようとする意識がはたらく。

これらの要因が4.2で挙げた三つの要因と結合して、非対面時の呼称が決定づけられているといえるのである。

5 おわりに

「対人呼称」は、その決定要因に見られるように、話し手の受け手に対する評価を如実に表している。すなわち、話し手の受け手に対する敬意が、そのまま対人呼称に反映されているといえるのである。

本稿は、「対面時」、「非対面時」における呼称をその対象としている。その結果、次のようなことがわかった。

第一に「相手場面」^(注3)によって「対人呼称」の差異性が、明確に認められた。ここでいう「相手場面」とは、単なる男女差、年齢差だけの問題ではない。それは、男女差、年齢差とともに、当日下部において、その農村社会、すなわち、男性社会という社会構造に大きく依存している「相手場面」のことなのである。こういう意味での「相手場面」が「対人呼称」の差として認められたのである。すなわち、「相手場面」とは、その地域社会の社会構造の一つとも考えられる。

第二に、「状況に関する場面」による対人呼称の差異性が、明確に認められた。当調査では、「対面時」、「非対面時」という様々な「状況に関する場面」の中の一部だけを取り上げたのであるけれども、同一人物に対する敬意は「場面」に支配されているということを明らかにできた。

以上のように、「対人呼称」を含めて、個人の使用する言語というものは、「場面」に大きく影響されているということが、明確にされたといえるのではないであろうか。

(注1) 対面時についての詳細な分析は、山陽女子短期大学紀要、第19号「対面時における対人呼称の動態—神戸市北區道場町日下部について—」に発表する予定である。

(注2, 注3) 「状況に関する場面」及び、「相手場面」という用語は、国立国語研究所(1990)によった。




〔参考文献〕

- 真田信治 1977 「一集落内における敬語行動」『日本語の文化・社会』三省堂
神鳥武彦 1989 「熊野町における言葉の生活」『熊野町史』広島県安芸郡熊野町

【謝辞】 この稿を成すに当たって、日下部の人々には多大の御協力を得た。厚く感謝するものである。

また、本稿は、神鳥武彦先生の御指導の下に成ったものである。記して、謝意を表したい。

地図凡例

- I 地図中の  は、家一戸を表す。
- II 地図中の  の中に付した算用数字は、家番号を表す。
- III 地図中の  の中に付したローマ字は、家番号と組み合わせて、非調査者番号を表す。（例 1 A, 1 B など）
その際、ローマ字 a, A は、男性を表し、b, B は女性を表す。
また、ローマ字の小文字は75歳以上の人を表し、大文字は75歳未満の人を表している。
- IV 地図中央に流れる有野川によって二分される西側は城南地区で、東側は中地区である。すなわち、家番号 1～21 の人たちは城南地区の住民であり、家番号 22～31 の人たちは中地区の住民である。
- V 道場南口駅周辺は商店を含み、調査地の中でも、どちらかというところの傾向の強い地域である。それ以外の地域が、農村的傾向の強い地域である。すなわち、家番号 7～14 の人たちは、街の傾向の強い地域の住民であり、家番号 1～6、及び 15～31 の人たちは、農村的傾向の強い地域の住民である。

記号凡例

I

呼称の形 接尾辞の 有無とその形	名前を 用いるもの	姓を 用いるもの	親族呼称を 用いるもの	親族呼称を一 般呼称として 用いるもの
そのままの形	○	△	□	㊦
～サン	●	♁	♂	㊦
～ハン	◎	▲	♀	㊦
～ヤン	●	♁	♂	㊦
～チャン	●	♁	♂	㊦
～ツァン	⊖			
～タン	①			

注) 接尾辞の前の～は、名前、姓、親族呼称を示す語を表す。

II 女性だけに用いる呼称

オクサン	♀
ヨメサン	♀

III 職業に関する呼称

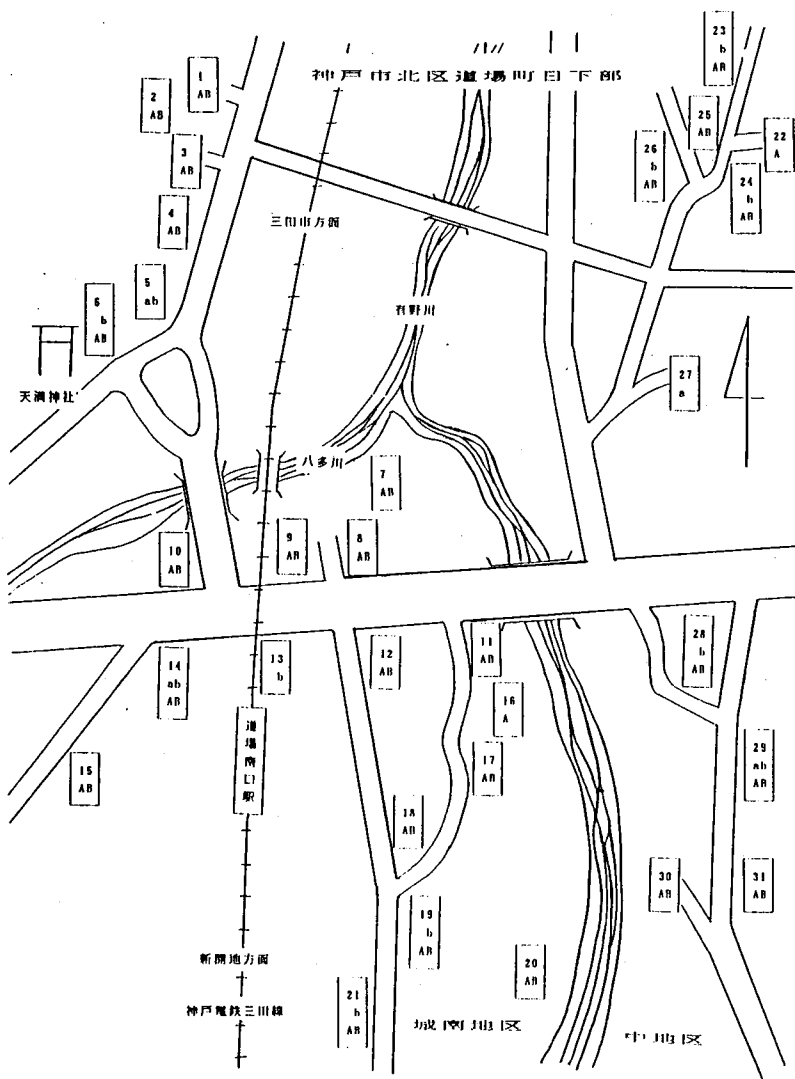
センセー	☆
------	---

注) 神主、教員に対する「先生」
だけが認められた

V 上記以外の呼称

タイショー	☞
-------	---

√ 表中の斜線は、縦横の両軸が同一人物である場合、及び、親子・夫婦間の呼称である場合は、表中から除いていることを示す。



〈表 I 対面時における男性から男性への呼称〉

地区名	地区名 受話	城南地区									中地区			
		2A	5a	6A	7A	8A	9A	12A	21A	26A	28A	29a	29A	
城南地区	1A (60)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	2A (61)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	3A (65)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	△		☐	☐	☐	☐
	4A (67)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	5a (82)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	6A (65)	☆	☆	☐	☆	☆	△	△	△	△	☆	☆	☆	☆
	7A (66)	⊖	⊖	⊖	☐	⊖	△	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
	8A (64)	☐	☐	☐	☐	☐	△		☐	☐	☐	☐	☐	☐
	9A (50)	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐		☐	☐	☐
	10A (70)	⊖	⊖	⊖	△	⊖	⊖	⊖	⊖		⊖	⊖	⊖	⊖
	11A (62)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	12A (66)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	14a (88)	△		△	△	△	△	☐ ₁	☐ ₂					
	14A (61)			△	△	☐	△	☐	△					
	15A (59)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	16A (70)	☐	☐	☐		☐	△	☐	☐		☐	☐	☐	☐
	17A (57)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	△		☐	☐	☐	☐
	18A (74)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	19A (58)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐		☐	☐	☐	☐
	20A (70)	☐	△	☐	△	☐	△	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐
	21A (47)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	○	☐	☐	☐	☐	☐	☐
中地区	22A (70)	☐		☐	△		△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	23A (60)	☐		☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	24A (60)	☐		☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	25a (75)	☐		☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	26A (63)	☐		☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	27a (86)	☐		☐	△		△		☐ ₂		☐	☐	△	☐
	28A (60)	☐		☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	29a (86)	☐		☐	△	☐	△	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐
	29A (60)	☐		☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	30A (65)	☐	△	☐	△	☐	△	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐
	31A (62)	☐		☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

☐₁ ョッサン

☐₂ オジサン

△ オジサン (この例は、実の叔父と甥の関係に当たるものである。)

〈表Ⅱ 対面時における男性から女性への呼称〉

地区名	地区名 受話	城 南 地 区									中 地 区			
		2A	5a	6A	7A	8A	9A	12A	21A	26A	28A	29a	29A	
城 南 地 区	1B (59)	☐		☐		☐	△			☐				
	2B (60)			☐	☐	☐	△			☐				
	3B (63)			☐		☐	△							
	4B (65)			☐		☐	△		☐	☐				
	5b (82)					☐			△	☐				
	6b (85)	△	△			△			△	☐ ₁				
	6B (60)	☐	△			△	☐	△	☐	☆		☐	☐	
	7B (67)			☐		☐	△		☐	☐		☐	☐	
	8B (64)				☐		△			☐				
	9B (47)		☐	☐		☐			△	☐				
	10B (71)			☐	☐	☐	△		☐	☐		☐		
	11B (61)	☐		☐	☐	☐	△		☐	☐		☐	☐	
	12B (67)			☐	△	☐	△		△	☐				
	13b (77)	△	△	☐ ₁	△	△	△	△	△	☐ ₁	☐	△	△	
	14b (83)			☐	△	☐	△		☐	☐ ₁				
	14B (60)			☐	△	☐	△		☐	△				
	15B (60)			☐		☐	△		☐	☐				
	17B (55)	☐		☐	☐	☐	△		☐	△		☐		
	18B (70)			☐	☐	☐	△		☐	△				
	19b (81)	△		☐	△	☐	△		☐	☐ ₁		☐	☐	
	19B (57)	☐		☐	☐	☐	△		☐	△				
20B (70)	☐		☐	☐	☐	△		☐	△		☐	☐		
21b (75)			☐	△	☐	△		☐			△			
21B (45)			☐	△	☐	△		○						
中 地 区	23b (83)	☐			△				△	☐	☐	☐ ₁	☐ ₁	
	23B (59)				☐				☐	☐	☐			
	24b (83)				△					☐	☐			
	24B (61)				☐				☐	☐	☐			
	25B (73)			☐					☐ ₂	☐	☐			
	26b (84)			☐ ₁	△				☐ ₂		☐			
	26B (61)			☐	☐				☐		☐			
	28b (86)	☐		☐	△	☐			△	☐ ₁		☐ ₁	☐ ₁	
	28B (60)	☐		☐						☐		☐	☐	
	29b (86)	☐		△						☐	☐			
	29B (60)				☐				☐	△	☐			
	30B (65)	☐		☐	☐					☐	☐	☐	☐	
	31b (85)				△	☐				△	☐	☐	☐	
	31B (60)	△		☐	☐	☐				△	☐	☐	☐	

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

☐ オバちゃん

○ ネーヤン (この例は、実の姉と弟の関係に当たるものである。)

☐ オバサマ

△ オバサン (この例は、実の叔母と甥の関係に当たるものである。)

☐ オバハン

☐₂ オバーサン

〈表Ⅲ 対面時における女性から男性への呼称〉

地区名	地区名 受話	城 南 地 区									中 地 区						
		5b	6b	6B	7B	8B	9B	12B	13b	21B	26B	28b	28B	29b			
城 南 地 区	1A (60)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	2A (61)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	3A (65)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂				
	4A (67)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	5a (82)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	6A (65)	♂				♂	☆	☆	☆	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	☆
	7A (66)		♂	♂		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	8A (64)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	9A (50)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	10A (70)			♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	11A (62)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	12A (66)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	14a (88)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	14A (61)			♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	15A (59)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	16A (70)		♂	♂		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	17A (57)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	18A (74)		♂	♂		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	19A (58)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	20A (70)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	21A (47)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
中 地 区	22A (70)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	23A (60)		♂	♂		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	24A (60)					♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	25a (75)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	26A (63)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	27a (86)		♂	♂		♂			♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	28A (60)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	29a (86)		♂			♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	29A (60)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	30A (65)		♂	♂			♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		
	31A (62)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂		

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

♂₁ オジサン

♂₂ オジサン (この例は、実の叔父と甥の關係に当たるものである。)

♂₂ オジサン

♂₁ オジチャン

〈表Ⅳ 対面時における女性から女性への呼称〉

地区名	地区名 変換	城 南 地 区										中 地 区					
		5b	6b	6B	7B	8B	9B	12B	13b	21B	26B	28b	28B	29b			
城 南 地 区	1B (59)	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀			♀	♀			
	2B (60)	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀			♀	♀			
	3B (63)	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀			♀	♀			
	4B (65)	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀			♀	♀			
	5b (82)	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀			♀	♀			
	6b (85)	♂	♀	♀	♂ ₂	♂ ₂	♂	♀	♀	♂	♂	♂ ₂	♀	♀			
	6B (60)	♂	♀	♀	♀	☆	♂	♀	♀	♀	♀	☆	♀	♀	☆		
	7B (67)	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀			♀	♀		
	8B (64)	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀			♀	♀	♂	
	9B (47)	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀	♂			♀	♀	♂	
	10B (71)	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀			♀	♀	♂	
	11B (61)		♀	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♂			♀	♀	♂	
	12B (67)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♀	♂ ₂	♀	♀	♀	♀	♂	♂	
	13b (77)	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁
	14b (83)	♂	♀	♀	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♀	♂ ₁	♀			♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁	♂ ₁
	14B (60)			♀	♂	♀	♂	♀	♀	♀	♂			♀	♀		
	15B (60)		♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀			♀	♀		
	17B (55)		♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♂			♀	♀		
	18B (70)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♂			♀	♀	♂	
	19b (81)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♀			♀	♀		
	19B (57)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♂			♀	♀		
20B (70)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♂			♀	♀			
21b (75)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♂ ₁	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♂	♂	
21B (45)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♂	♂	
中 地 区	23b (83)					♂	♂	♂ ₁	♀	♂			♀	♀	♂ ₁		
	23B (59)					♂	♂	♀	♀	♀			♀	♀	♀		
	24b (83)					♂	♂	♀	♀	♀			♀	♀	♂ ₁		
	24B (61)			♀		♂	♂	♀	♀	♀			♀	♀	♀		
	25B (73)			♀	♀	♂	♂	♀	♀	♀	♂ ₂		♀	♀	♂ ₁		
	26b (84)		♀	♂ ₂	♀	♂ ₁	♂	♂	♀	♀	♂ ₂	♀	♀	♀	♀	♀	♀
	26B (61)			♀	♀	♂	♂	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀
	28b (86)		♀	♀	♀	♀	♂	♂	♂ ₁	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀	♀
	28B (60)			♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀
	29b (86)		♀	♂	♂ ₁	♂	♂	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♂ ₁	♂
	29B (60)			♀	♂	♂	♂	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀
	30B (65)			♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀
	31b (85)					♀	♂	♂ ₁	♀	♂	♂	♀	♀	♀	♂ ₁	♀	♀
	31B (60)				♀	♀	♀	♂	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

♂₁ オバサン

♂₁ オネーサン (この例は、総理の姉と妹の関係に当たるものである。)

♂₂ オバマハン

♂₂ オバサン (この例は、実の叔母と姪の関係に当たるものである。)

♂₃ オバヂヤン

♂₄ オバニサン

〈表V 非対面時における男性から男性への呼称〉

地区名	地区名 受話	城 南 地 区									中 地 区							
		2A	5a	6A	7A	8A	9A	12A	21A	26A	28A	29a	29A					
城 南 地 区	1A (60)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	2A (61)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	3A (65)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	4A (67)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	5a (82)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	6A (65)	△	△	☐	△	☆	△	△	△	△	△	△	☆	☐	△	☐	☐	☐
	7A (66)	⊖	⊖	⊖	☐	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
	8A (64)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	9A (50)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	10A (70)	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	○	⊖	⊖	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	11A (62)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	12A (66)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	14a (88)	☐	△	△	△	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	14A (61)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	15A (59)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	16A (70)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	17A (57)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	18A (74)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	19A (58)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	20A (70)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	21A (47)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	○	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
中 地 区	22A (70)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	23A (60)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	24A (60)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	25a (75)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	26A (63)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	27a (86)	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	28A (60)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	29a (86)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	29A (60)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	30A (65)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	△	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	31A (62)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

☐₁ オジーサン △ オジサン (この例は、実の叔父と甥の関係に当たるものである。)

☐₂ オッサン ☐₃ シュジン

☐₄ オジサン

☐₅ ムスコ

〈表VI 非対面時における男性から女性への呼称〉

地区名	地区名	城 南 地 区									中 地 区			
	受 話	2A	5a	6A	7A	8A	9A	12A	21A	26A	28A	29a	29A	
城 南 地 区	1B (59)	☐		☐		☐	△			☐				
	2B (60)	☐		☐	□	☐	△			☐				
	3B (63)			☐	◇	☐	△							
	4B (65)			☐		☐	△		□	☐				
	5b (82)		☐			☐			△	☐				
	6b (85)	△	△			△			△	☐ ₁				
	6B (60)	☐	△	☐	△	☐	△		□	☆		□	□	
	7B (67)			☐	△	☐	△		☐	☐	◇	□	□	
	8B (64)			☐	☐	△	△			☐				
	9B (47)		☐	☐					△	☐				
	10B (71)			☐	☐	☐	△	☐	☐		☐			
	11B (61)	☐		☐	□	☐	△	☐	□		☐	□	□	
	12B (67)			☐	□	☐	△	☐	△	☐				
	13b (77)	△	△	☐ ₁	☐	△	☐ ₂	△	☐ ₁	☐ ₁	☐	☐ ₁	☐ ₁	
	14b (83)	◇	△	☐	☐	□	☐ ₂	☐	☐ ₁					
	14B (60)			☐	◇	☐	△	☐	□					
	15B (60)			☐		☐	△		☐	☐				
	17B (55)	☐		☐	□	☐	□	☐	△		☐			
	18B (70)			☐	◇	☐	△		□					
	19b (81)	△		☐	☐	☐	△	☐	☐ ₂			☐	☐	
	19B (57)	☐		☐	□	☐	□	☐	△					
20B (70)	☐		☐	□	☐	△	☐	☐			□	□		
21b (75)			☐	☐	☐	△	△	☐		◇				
21B (45)			☐	◇	☐	◇	○	☐						
中 地 区	23b (83)	☐			□				☐ ₂	☐	☐	☐ ₁	☐ ₁	
	23B (59)				□				□	☐	☐			
	24b (83)				△					☐	☐			
	24B (61)				□					□	☐			
	25B (73)			☐					☐ ₂	☐	☐			
	26b (84)			☐ ₁	☐				☐ ₂	☐	☐			
	26B (61)				□				□	☐	☐			
	28b (86)	☐		☐	☐	☐			△	☐ ₁	☐	☐ ₁	☐ ₁	
	28B (60)	☐		☐	◇				□	☐	☐	☐	☐	
	29b (86)	☐		△					☐ ₂	☐	☐	☐	☐	
	29B (60)				□			☐	□	☐	☐	☐	☐	
	30B (65)	☐		☐	□				☐	☐	☐	☐	☐	
	31b (85)	◇			□	☐			△	☐	☐	☐	☐	
31B (60)	◇		☐		◇			△	☐	☐	☐	☐		

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

☐₁ オバチャン

☐ ネーヤン (この例は、実の姉と弟の関係に当たるものである。)

☐₁ オバサン

☐ オバザン (この例は、実の叔母と甥の関係に当たるものである。)

☐ オバハジ

☐₂ オバーサン

〈表Ⅶ 非対面時における女性から男性への呼称〉

地区名	地区名 受話	城 南 地 区									中 地 区										
		5b	6b	6B	7B	8B	9B	12B	13b	21B	26B	28b	28B	29b							
城 南 地 区	1A (60)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	2A (61)		♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	
	3A (65)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	4A (67)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	5a (82)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	6A (65)	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	7A (66)		♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	8A (64)		♂	♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	9A (50)	♂	♂	♂	♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	10A (70)			♂	♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	11A (62)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	12A (66)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	14a (88)	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	14A (61)			♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	15A (59)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	16A (70)		♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	17A (57)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	18A (74)		♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	19A (58)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	20A (70)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	21A (47)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
中 地 区	22A (70)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	
	23A (60)		♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	24A (60)		♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	25a (75)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	26A (63)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	27a (86)		♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	28A (60)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	29a (86)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	29A (60)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	30A (65)		♂	♂				♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
	31A (62)		♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

- ♂₁ オジサン ♀ オジサン (この例は、実の叔父と甥の関係に当たるものである。)
- ♂₂ オジニサン ♀ ゴヨシサン
- ♂ オジニチャン

〈表Ⅷ 非対面時における女性から女性への呼称〉

地区名	地区名 受話	城 南 地 区									中 地 区				
		5b	6b	6B	7B	8B	9B	12B	13b	21B	26B	28b	28B	29b	
城 南 地 区	1B (59)	●	●	●	●	●	●	●	□	□	●	●			
	2B (60)	●	●	●	●	●	△		□		●	●			
	3B (63)	●	●	●	●	●	△		□		●				
	4B (65)	●	●	●	●	●	△	●	□	□	●				
	5b (82)	△	●	●			△		□	□ ₂	●				
	6b (85)	△	△		□ ₂	□ ₂	△		□	△	□ ₂	□			
	6B (60)	△	△		●	●	△	□	□	△	△	□	△	□	
	7B (67)	●	●	●			●	●	□	●	●				
	8B (64)	●	●	●	●	●	●	□	□	●	●			△	
	9B (47)	●	●	●	●	△		●	●	△			△		
	10B (71)	●	●	●	●	●	△	●	□	●	●	●	△		
	11B (61)		●	●	●	●	●	●	□	△		●	△		
	12B (67)		●	●	●	△	●	△	□	△	●	●	△		
	13b (77)	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□ ₁	
	14b (83)	△	●	●	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□ ₁	□	□ ₁					
	14B (60)			●	△	●	△	●	□	□					
	15B (60)		●	●	●	●	△	●	□	●	●	●	●		
	17B (55)		●	●	●	●	△	●	□	△		●	●		
	18B (70)		●	●		●	△	●	□	□				△	
	19b (81)		●	●	●	●	△	□ ₁	□	□ ₂		●			
	19B (57)		●	●	□	●	△	●	□	△					
20B (70)		●	●	●	●	△	●	□	●				△		
21b (75)		●	●	●	●	△	●	□	△	●	●	△			
21B (45)		●	●	●	●	●	●	□	△	●	●	△			
中 地 区	23b (83)					△	△	□ ₁	□	△	●	●	□ ₁		
	23B (59)					△	△		□	□	●	●	●		
	24b (83)					△	△		□		●	●	□ ₁		
	24B (61)			□		△	△	□	□	□	●	●	●		
	25B (73)			●	□	△	△	●	□	□ ₂	●	●	□ ₁		
	26b (84)		●	□ ₂	□	□ ₁	△	△	□	□ ₂					
	26B (61)			●	□	△	△	△	□	□		●	●	●	
	28b (86)		●	●	●	●	△	△	□ ₁	□	△	□ ₁			●
	28B (60)			●		●	△	●	□	□	●			●	
	29b (86)		●	△	□ ₁	△	△	●	□	□ ₂	●	●	□ ₁		
	29B (60)			●	△	△	△	●	□	□	●	●	●		
	30B (65)			●			△	●	□	●	●	●	●	●	
31b (85)					●	△	□ ₁	□	△	●	●	□ ₁	●		
31B (60)		●	●	●	●	△		□	□	●	●	●	●		

表中に見える注記は、それぞれ以下の呼称を用いていることを表す。

□₁ オバサン

△ オバサン (この例は、実の叔母と姪の関係に当たるものである。)

□₂ オババシ

□₁ オバチヤン

□₂ オバニサン